

Challenge Art in Japan 2017

#TAMABI_HAKASE 展 関連イベント

シンポジウム

「美大と博士課程

—作品と言葉—」

2017年11月25日(土) 14:00~15:30



Challenge Art in Japan 2017
#TAMABI_HAKASE 展

会期 2017.11.16. 木 ~ 12.08. 金
会場 韓国文化院ギャラリー M1、1F
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-20 駐日韓国大使館 韓国文化院

主催 駐日韓国大使館 韓国文化院、多摩美術大学
特別協力 コロンビアインターナショナルスクール、ワイエムコンサルティング



シンポジウム「美大と博士課程—作品と言葉—」

【登壇者】

〈多摩美術大学〉

梶谷令（博士後期課程 2 年 美術研究科（版画））

岸かれん（博士後期課程 3 年 美術研究科（油画））

張ビンナ（博士後期課程 1 年 美術研究科（工芸（陶）））

〈武蔵野美術大学〉

花崎結梨（博士後期課程 1 年 作品制作研究領域）

松下沙織（博士後期課程 2 年 作品制作研究領域）

〈東京藝術大学〉

ヴァンセント・ライタス（博士後期課程 1 年 先端芸術表現専攻）

管実花（博士後期課程 2 年 先端芸術表現専攻）

司会：板垣達之（博士後期課程 3 年 美術研究科（芸術学））

【構成】

1. はじめに「美大の博士課程って何してるの？」

1-a 自己紹介

1-b 各美大博士課程の概略説明

2. 「作品制作と博論」

2-a 博論を書いて、作品が良くなったと感じるか？

2-b 制作と博論のバランスの取り方

2-c そもそも、作品には言葉（論文）が必要か？

2-d 博士課程の学生だからできることはなに？

3. 「今後の美大博士をどうしていくべきか？」

3-a 今後の美大博士の交流について

3-b どう世間に美大博士の存在をアピールするか？

質疑応答

板垣 達之 ITAGAKI Tatsuyuki

早稲田大学 第一文学部 美術史学科 卒業

多摩美術大学大学院 修士課程芸術学専攻 修了

現在 多摩美術大学大学院 美術研究科 博士後期課程 (美術史学)

研究テーマ

「日本戦後ポップ・アート史」

ポップアートの日本における受容。その後、現在に至るまでの日本ポップ・アートの独自の発展について研究。

論文等

「アンディ・ウォーホルにおける” machine-like” の意味
/Andy Warhol as a” machine-like” artist」(2014)

▼機関リポジトリ



梶谷 令 KAJITANI Ryo

2016 多摩美術大学大学院 美術研究科 修士課程 修了

現在 多摩美術大学大学院 美術研究科 博士後期課程 (作品制作領域)

主な展示

2017 「梶谷令 個展」第1回ギャラリー志門 University Selection 企画 Vol. 2 多摩美術大学大学院

主な受賞

2014 第5回「ドローイングとは何か」展 入選

2016 第93回春陽展 入選

2016 ArtBridge FAIR vol.1 入選・審査員賞

2017 Views on contemporary Japanese Printmaking - Cyprus 2017

2017 第10回高知国際版画トリエンナーレ展 入選

2017 平成29年度 多摩美術大学校友会奨学生 受賞

2017 SHIBUYA AWARDS 2017 in 第9回 渋谷芸術祭 入選

2017 一般財団法人守谷育英会第25回修学奨励金 奨励賞 受賞

2017 FACE 損保ジャパン日本興亜美術賞

研究テーマ

作品が作品として配慮される最初の場としての展示空間と、そこにおける作者・鑑賞者の相関と分類に関する研究。—ハイデッガー著『芸術作品の根源』に基づく存在論を中心的な参照軸として—



左上：《夢をみていた》

右上：《喪失》

下：《Lipton 125th Anniversary- 光の中にいる -》



<https://www.ryokajitani.com>

岸 かれん KISHI Karen

2013 多摩美術大学 美術学部 絵画学科油画専攻 卒業

2015 多摩美術大学大学院 美術研究科 博士前期課程 絵画専攻 修了

現在 多摩美術大学大学院 美術研究科 博士後期課程 (作品制作領域)

主な展示

2011 Rainbow in the Clouds, Eve Gallery

2012 Kishi Karen 1st Solo Exhibition, Jangcheon Art Center

2012 Personal Space 展, ギャラリー工房親

2014 岸かれん展, ANOTHER FUNCTION

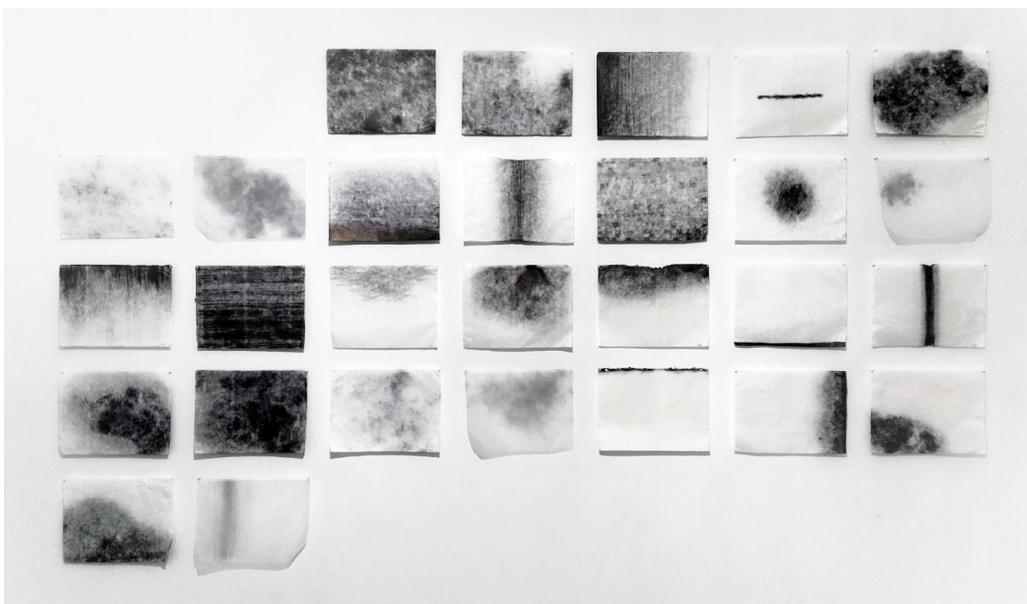
2015 80周年記念博士展、多摩美術大学

2016 本江邦夫プロジェクト展の軌跡展, ANOTHER FUNCTION

研究テーマ

論文：自作論に基づく絵画の物質性

制作：ものと時間における確かさと不確かさの揺らぎ



《Voices of Days》



《Voices of Weeks》



《untitled (pilled up)》

張 ビンナ JANG Bitna

1989 韓国 釜山生まれ

2012 韓国 建国大学デザイン造形学部工芸専攻卒業

2017 多摩美術大学大学院 美術研究科 博士前期過程 工芸専攻 修了

現在 多摩美術大学大学院 美術研究科 博士後期過程

主な展示

2012 2011 年度 建国大学工芸学科卒業制作展

2015 アジア現代陶芸展出品

2016 アジア現代陶芸展出品

2017 2016 年度 多摩美術大学大学院修了制作展

2017 TAMAVIVANT II 2017 ポガティブ展

研究テーマ

論文タイトル：目に見えないエネルギーを陶によって表現すること

サブタイトル：木から感じるエネルギーに基づいて、美術表現における土を焼くことについて考える。

制作：木と生殖器の共通する生命のかたち



《詰まった木》



《動けない木》



《成長》



《生命の力》

菅実花 KAN Mika

2013 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻 卒業
2014 シュトゥットガルト美術アカデミー 在外研修
2016 東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現修士課程 修了
現在 東京藝術大学大学院 美術研究科 美術専攻 先端芸術表現研究領域 博士後期課程

最近の主な展示

2016 「The Future Mother」慶応義塾大学日吉キャンパス来往舎
2017 「黄金町バザール 2017 - Double Façade 他者と出会うための複数の方法」黄金町 Site-A ギャラリー

主な受賞歴

2014 吉野石膏美術振興財団在外研修員
2016 日本文化芸術財団奨学生

研究テーマ

SF などの創作物において表象されてきた、サイボーグやアンドロイドなどの人工的身体や人工生命に関心を抱いている。主なりサーチ対象は主に 19 世紀から今日に至るまでの表象文化の系譜と、既にも実現されている、あるいは今日実現されつつあるテクノロジーである。ヒューマノイドロボットや高度生殖医療などの技術的進歩によって変遷しつつある、新たな身体観や生殖の在り方を作品のテーマとし、人形・写真・映像などのメディアを用いて、「未来の母」の姿を描く試みに近年取り組んでいる。



左上：《The Three Graces》

右上：《The Future Mother 10, 04》

下：《The Future Mother 09, 06, 07》



<http://mikakan.com/>

ヴィンセント・ライタス Vincent Ruijters

2011 ユトレヒト美術大学大学院 Design for Digital Cultures 専攻 修了

2017 多摩美術大学大学院デザイン専攻メディア芸術研究領域 修了

現在 東京藝術大学大学院 美術研究科 美術専攻 先端芸術表現研究領域 博士後期課程

主な個展

2014 Bokusaiga: Expressing Japan

主な受賞歴

1999 North Sea Jazz Festival Art Competition

2004 Kunstbende 2014 選考会 2 等賞 EXPO 部門

2011 International Portico Students' Challenge 1 等賞

2012 Charlemagne Youth Prize 国家賞

2013 プリンスベルンハルトカルチャーファンド賞受賞

2014 Heritage In Motion Award 入選

2015 日本政府（文部科学省）奨学金（修士課程）受賞

2017 日本政府（文部科学省）奨学金（修士課程）受賞

研究テーマ：美術とインティマシー



左上：《Vortex Flower》

右上：《風の回想記》

下：《Tactile Echo》



<http://vincenruijters.com>

花崎 結梨 HANASAKI Yuri

2014 武蔵野美術大学造形学部油絵学科 卒業

2017 武蔵野美術大学大学院修士課程 修了

現在 武蔵野美術大学 大学院 博士後期課程 作品制作研究領域

制作研究：パステル画、パフォーマンス、インスタレーションなどが主な作品形態

論文テーマ：レヴィナスの「顔」から考察するバンクシー



《小麦色の犬》金髪になった自分の髪を、実家で飼っていたゴールデンレトリバーを思い出しながら髪をとかずパフォーマンス。だんだんと自分の髪が犬の毛を撫でているような感覚になってくることの再現。「星の王子様」よりきつねが出てくる下りを読む。



2つの作品を行き来してもらう展示形態。

「Free Run」は祖父の形見の時計の狂った柱時計を実家から持ち込み設置、展示した作品。空間化された時間とはずれながら、柱時計は動いている。壁の中の世界と壁の外を繋ぐような存在。

「Jet lag」はその柱時計のチャイムを逆再生、さらに引き伸ばした音響のなる空間。時差ぼけは長距離を短時間で移動するから起こる。日常的にも時差ぼけのような不調を感じる時がある。時間感覚への問い。

松下 沙織 MATSUSHITA Saori

2016 武蔵野美術大学大学院修士課程 彫刻コース 修了
現在 武蔵野美術大学 大学院 博士後期課程 作品制作研究領域

主な展示

- 2014 TAGBOAT ART FES 2014
理化学研究所展示プロジェクト 2014
3331 千代田芸術祭 2014 3331 アンデパンダン展
アートプログラム青梅 2014 四大学学生展 「想いを紡ぐ街」
- 2015 武蔵野美術大学課外センター有志展 「大学と社会のあいだ」
武蔵野美術大学彫刻学科研究室・府中市美術館共催企画展示 「彫刻と対話法」
- 2016 平成 27 年度 武蔵野美術大学卒業・修了制作展
東京五美術大学 連合卒業・修了制作展

研究テーマ

論文：ブランクーシの彫刻に関する研究

制作：施釉陶器の彫刻彫刻、「聖なる」とは何か



左上：《聖域を模したオブジェ》

右上：《少女の偶像》

下：《少女と白昼夢のオブジェ》



<http://matsushitasaori.com>